

# 退職男性の地域活動グループの育成と活動の推進要因

たきざわひろこ  
○滝澤寛子（京都大学大学院医学研究科）

若林佳子（長浜市健康福祉部地域包括支援課）

**【背景】** 団塊の世代が退職を迎え仕事中心の生活から地域とのかかわりを充実させていく生活へと移行している。しかし、退職を肯定的に捉え新たな人生を求めて生活を充実させていく者と、空虚感から抜け出し難い者がいることが示唆されている。退職を健康的な生活を手に入れる契機と捉え、グループ活動への参加を通して地域とのかかわりを充実させていくことを目指し、退職男性の地域活動グループづくりに取り組んだ。

**【目的】** 退職男性の地域活動グループの誕生からその後の活動経過を追跡し、グループ活動の推進要因について検討した。

## 【方法】

### 1. グループ育成を目指す講座の企画・実施

55～65歳の男性を対象に、健康づくりと仲間づくりを目指す全7～8回の講座を企画し2007年、2008年に実施した。講座の企画では、①目的の明確化、②団塊世代男性の嗜好の取り入れ、③参加者の主体性の尊重、④ネーミング、⑤健康づくりと仲間づくりの学習、⑥地域への関心を高める、⑦社会資源の情報提供、⑧やりたいことに対応した支援に配慮した。

### 2. グループの誕生とその後の活動追跡

グループ活動の経過について、活動場面への参加観察と、グループメンバーへの聞き取りによ

り把握し、活動展開をまとめた。活動の発展過程から、グループ活動の推進要因を抽出した。なお、調査に先立ち講座参加者には、目的・方法、守られる権利等について説明し同意を得た。

## 【結果】

### 1. 講座の参加者

2007年は23名の申込みで19名が継続参加。2008年は12名の申込みで全員が継続参加。年齢は58～65歳、参加動機は「地域にかかわりのある何かをしたい」「仲間をつくりたい」が多かった。

### 2. グループの活動

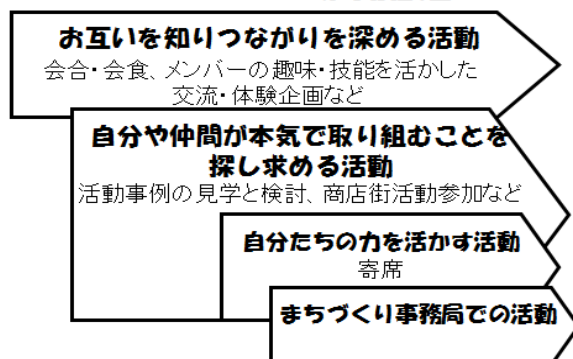
各年度の講座修了後、受講生の声で再度集まる場が設けられ、同期会が発足した。各グループの活動経過を図に示した。グループAはまちづくりのNPO団体らと協働した寄席の企画・運営や、まちづくり事務局の運営を一部担っている。グループBは高齢者福祉施設を活動拠点に、瓢箪の栽培からそれを活用した他世代交流のボランティア活動を行っている。

### 3. 活動推進要因

①肩書をすて互いをよく知ること、②自分たちにできることへの挑戦とその成果の実感、③さまざまな団体との協働、④縛られない自由と楽しさ、⑤活動拠点が考えられた。

E-mail ; takizawa@hs.med.kyoto-u.ac.jp

## グループAの活動経過



## グループBの活動経過

